

3、急啓、ショートステイ・「春風」様

【コメント】

毎月1回、老健施設「春風」での2泊3日のショートステイは、介護者の大休止はもちろんだが、被介護者本人にとつても集団生活に参加、頑張つてるのはわたし独りではない、と、「群れの意識」を感得する刺激的チャンスである。

これまでから、その都度、必要な連絡文書を発出してきた。利用開始以来の文書は、全部あわせると優に一本を為すくらい。だが、今回の、新段階、最初のショートステイでは、身体状況の現状を正しく理解してもらうことが不可欠だつた。そこで、多少くどいほどに現状とお願いをるる述べている。

ステイは、二泊三日で、三日目の夕刻5時に帰宅する。
「まか、まか、と待ちわびながら、

「こうして待てるのも生きてるからこそ。幸せだナ」と、きまつて思うのが常である。

「春風」・ステイ担当責任者様

本年も宜しくお願ひします。

お陰さまで今年の6月には、老々在宅介護も7年目になります。これも、一重に「春風」はじめ、皆さんの献身的奉仕と人間愛のたまものと深く感謝しています。

有田和子は、「この1週間が山」と告知されていた三度目の誤嚥性肺炎から、「奇跡」の生還を遂げました。が、これまでとは異なる困難とたたかいながら懸命に生きています。満身創痍、それでも天はなお生きよと命じています。

自力での喀痰排出ができません。主治医からは、「気管切開」の手術をすすめられていました。が、家族会議（昨年12月15日）で、「これ以上の延命措置は行わないで自然に任せること」と結論、手術は行いません。

新段階のショートステイにあたり、改めてお願ひ事を列記します。